

2008年度受託研究概要報告

香り発生装置(芳香器)の試作品製作

研究メンバー

- 大田尚作 デザイン学部プロダクトデザイン学科教授
- 相良二郎 デザイン学部プロダクトデザイン学科教授
- 曾和具之 デザイン学部プロダクトデザイン学科准教授
- 林口哲也 デザイン学部プロダクトデザイン学科助手
- 金鍾其 デザイン学部プロダクトデザイン学科実習助手
- 泊里涼子 デザイン学部プロダクトデザイン学科実習助手
- 大和勇一 神戸芸術工科大学事業推進課技術職員

委託者

株式会社ウィーヴィング・ネットコアケミカル

1 背景

クライアントである株式会社ウェービングネットコアケミカル社より、開発中の炭化綿の機能特性を考慮した、芳香装置開発についてのデザイン依頼を受けた。担当者と研究室間で毎月の会合を重ね、炭化綿の特性の確認と展開の方向について研究会を続けていった。その中から炭化綿の特性を以下の三つに整理することができた。

2 特徴

- 1: 炭化綿単体では吸着度が弱い。
 - 2: コスト高商品となる。
 - 3: 芳香の制御がおこなえる。
 - 4: 電氣的制御が必要不可欠である。
- 展開の方向性について検討を重ねた結果、以下の四つの方向を確認した。

商品化の方向性

- 1: 公共空間（老人ホーム）居室への展開
- 2: パーソナルユース商品としての展開
- 3: カー商品部門への展開
- 4: 販促用商品としての展開

上記方向の内、比較的初期投資が少なく、商品使用評価も回収しやすい点を優先し最初に1: 公共空間（老人ホーム）居室への展開を意図した商品化を目指したデザイン提案をおこなった。

開発に際し、以下五つの条件を満たすことを確認した。

3 開発の条件

- 安全でメンテナンス容易な商品開発
- 弛緩制御のできる芳香装置を有した商品
- 「壁掛け型」・「床置き型」・「テーブル裏面」への展開を考慮したデザイン
- 時間により・作業内容などにより、芳香剤の使い分けができる
- 芳香剤（みどりの香）と医学的効能の検証

4 CAD提案

次に2: パーソナルユース商品への展開を目指しアイデア展開をおこなうこととした。その時に以下の条件をふまえた展開を目標とすることを確認した。

- アロマ業界のパーソナルユースアイテムは飽和市場商品であり、新しい付加価値を提案すること
- コスト削減を意図した商品開発を提案すること
- 環境問題・エコロジーな話題を提供できる商品開発を目指すこと

5 樹脂造形装置によるモデル

パーソナルユースの壁掛けタイプ・床置きタイプについて3タイプをCADで作成し、データを神戸市NIROの樹脂造形装置で出力した。

このモデルで開閉部をはじめとした部品の動作確認をおこない、電動部品と炭化綿機構部セッティングし検討を重ねていった。

6 今後の展開

いずれも、モックアップモデルまでのデザイン提示であり、商品化までには至っていない。特に1: 公共空間（老人ホーム）居室への展開については試作器によるデータ収集を継続しており、改良をふまえて商品化への努力を継続してほしいと願っている。



写真1 初期イメージモデル



写真4 ソーラー型アロマハウス各種



写真2 二次モデルA



写真5 ソーラー型アロマハウス

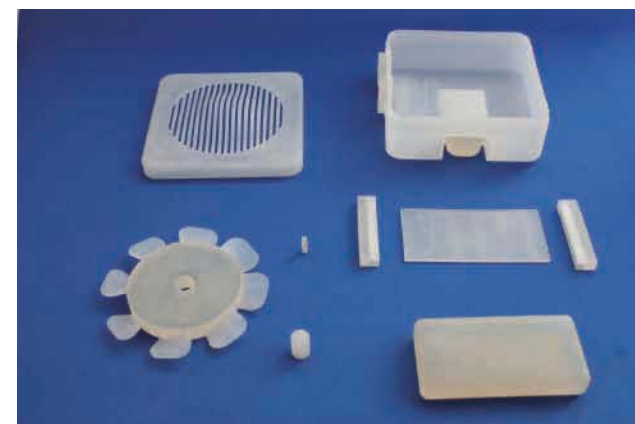


写真3 二次モデルB



写真6 ソーラー型アロマハウス



写真7 アロマハウス用ポスター



写真8 アロマハウス組み立て解説図